

# 平成25年度 学校自己評価書

小美玉市立堅倉小学校 校長 吉川 博久

## 1 今年度の取り組みの概要

- 児童の学習習慣の確立と基礎的・基本的事項の定着
- 自分の考えや解決方法を表現する能力を高めることに視点を当てた授業研究の充実（算数科）
- 児童の思いや考えを生かした係・委員会活動など特別活動の充実
- 学校生活の基盤となる児童同士の好ましい人間関係づくり
- 保護者や地域との双方向による情報発信
- 学校支援ボランティア組織の有効活用

<達成度 A：十分に達成 B：おおむね達成 C：達成せず D：課題が残る>

### ◎ 達成目標 1 についての具体的な取り組み

組織目標 1	基礎・基本の確実な定着を図り，思考力・判断力・表現力等を高める学習指導を推進する。		
達成目標	具体的な方策	実施結果	達成度
自分の考えや解決方法を表現する能力を高める授業を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発問や学習形態などの工夫による言語活動の充実</li> <li>・TT による指導や ICT の活用等による個に応じた指導の充実</li> <li>・家庭学習強化週間や月間の設定による家庭学習の促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数科で，書く・話す・聞く・話し合う力がついてきたと回答する児童の割合58%</li> <li>・家庭学習強化週間9回実施</li> <li>・家庭学習を1時間以上行う児童の割合 5年80%，6年97%</li> </ul>	B
児童の思考力・判断力・表現力等の育成と人間関係づくりに関する指導法の工夫・改善に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上推進プロジェクト事業への積極的な参画</li> <li>・校内研究組織の活動内容の明確化</li> <li>・学年ブロックを中心とした研究体制の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人1回ずつの授業公開並びにプレ授業を実施</li> <li>・思考力・判断力・表現力を高める算数科指導について手応えを感じる教師の割合80%</li> <li>・校内研修が充実していたと回答する教員の割合100%</li> </ul>	A

### ◎ 達成目標 2 についての具体的な取り組み

組織目標 2	相手を理解し，互いのよさを伸ばす温かな人間関係づくりを推進する。		
達成目標	具体的な方策	実施結果	達成度
児童が自ら活動を工夫し，楽しみながら協力し合って取り組む係・委員会活動を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堅倉っ子タイムの有効活用</li> <li>・学級活動での話し合い活動</li> <li>・みんなのために「したい活動」</li> <li>・役割分担の明確化と活動時間の保障</li> <li>・活動への適切な評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・係活動を楽しく行うことができたと回答する中・高学年児童の割合61%</li> <li>・話し合いや係の活動で，先生がヒントとなるアドバイスをしてくれていると回答する中・高学年児童の割合72%</li> </ul>	B
互いに相手の身になって考え，支え合い励まし合える学級経営を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事等と関連づけたライフスキルトレーニングの実施</li> <li>・各種体験等と関連付けた道徳の時間の指導</li> <li>・夢や希望を語り合う場の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフスキルトレーニングを年間6回以上行っていると回答する教師の割合80%</li> <li>・友達の夢や希望を知っていると回答する児童の割合34%</li> </ul>	C

◎ 達成目標 3 についての具体的な取り組み

組織目標 3	保護者・地域との情報の共有化を図るとともに、双方向の連携を推進する。		
達成目標	具体的な方策	実施結果	達成度
保護者等の立場に立った情報提供を行い、信頼関係の構築に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者等のニーズに応じた学校だより等の各種通信の発信</li> <li>・携帯メール配信システムの活用</li> <li>・子どもの変化を見逃さない保護者との情報連携</li> <li>・学校評価の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の様子がよく分かる回答する保護者の割合70%</li> <li>・学校だよりを月2回以上発行する。</li> <li>・親子会議を年間5回開催し、結果等の情報提供を行う。</li> <li>・年計に学校支援ボランティアの位置付けを行う。</li> </ul>	A

## 2 今年度の成果と次年度に向けた課題

- 学力向上推進プロジェクト事業に係る実践協力校として、算数科を中心として校内研修を充実させたことにより、教師の意識改革とともに授業力が向上しつつある。その結果、算数の学習が楽しいと回答する児童の割合が83%という成果が見られた。しかし、話し合う力がついてきたと回答する児童の割合58%と低いので、児童の考えを引き出す発問や板書構成の工夫が課題である。
- 学習習慣の定着や家庭学習時間の確保については、「家庭学習を1時間以上行う」と回答した高学年児童の割合が約80%と上がり、家庭学習の習慣が身に付きつつある。より多くの児童に浸透させるために、堅倉小学校版の家庭学習の手引きを作成し、児童及び保護者へ呼びかけた。今後は、積極的に取り組んでいる児童の学習内容を紹介するなどして、さらに意識を高めたい。
- 互いのよさを伸ばす温かな人間関係づくりを推進するための手立てとして、ライフスキルトレーニングを年間6回以上を目標に実施した。児童が学級を心の居場所と感じられるように、道徳の時間を中心に思いやりの心を育てる学級経営を工夫していきたい。また、友達の夢や希望を知っていると回答する児童の割合は34%と極めて低い結果であったので、児童の発達段階に応じて、互いの夢について話し合ったり夢の実現のための道筋を考えたりする場の設定が課題である。
- 学校だより等の発行と併せてHPや携帯メール配信等を活用して情報発信を行い、保護者からは学校からの情報提供について概ね満足をいただいている。各学年の状況に応じて多様な保護者の声を生かしながら情報発信ツールの更なる有効活用を図り、誠実に早期対応をしていく。
- 学校支援ボランティアの活用については、コーディネーターの献身的な働きもあり、生活科や家庭科、学校行事や環境整備等において有効に活用させていただいている。今後は、各教科等の年間指導計画におけるボランティアの位置付けを見直し、事前の連絡を十分に行いながら内容や方法について共通理解を図っていく。

## 3 保護者や地域の皆様へ

学校教育目標「確かな学力と豊かな心をはぐくみ たくましく生きる児童をそだてる」の実現に向けて、「思考力・判断力・表現力等を高める授業づくり」「互いのよさを伸ばす温かな人間関係づくり」「保護者・地域との双方向の連携」の3つ柱を立て各種教育活動を推進してまいりました。

一つ目の「学力の向上」については、教師の授業力向上が子どもの学力向上に直結すると考えて校内研修を推進し、話し合い活動や学力診断テスト結果に成果が見え始めています。保護者の皆様にも、家庭学習の時間確保と内容の充実についてご協力をいただきながら、さらに研修を深めて成果を上げていきたい考えです。二つ目の「人間関係づくり」については、学級活動や道徳の時間、体験活動等いろいろな機会を取り上げながら、豊かな心をはぐくむ基盤をつくっていくことが課題です。三つ目の「信頼関係の構築」につきましても、アンケートや皆様からの直接の声を生かした学校運営に努めているつもりですが、双方向でのやりとりは十分にできていません。今後も、学校を知っていただくために学校だよりやHP等の内容を充実して様々な情報を発信してまいりますので、皆様には、学校に足を運んで授業や校内環境をご覧いただき、子どもたちの様子や学校の取組について、本校職員と言葉を交わしていただくと幸いです。